



山門施餓鬼

8月15日(月)

朝 7:30 ~ 正午 12:00

(水向料は一家 12,000 円となります)



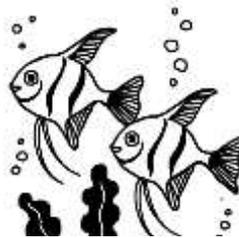
あちこちの家の縁側で苦瓜や朝顔の日よけが立派に活躍する中
朝のラジオ体操に向かう子ども達の姿に、笑顔と元気をもらうこの頃。
畑に目をやると里芋の葉が大きく茂り、秋も近いことを感じます。
熱中症が心配される日々、皆様いかがお過ごしでしょうか。



さて、今月は山門施餓鬼を迎えます。
山門施餓鬼会では「開甘露門(かいかんろもん)」という
お経を中心にお唱えします。
「甘露」とは、天の神々が飲む甘い霊液で
それを飲むと不死を得ると言われています。
これが転じて「仏の教え、仏の悟り」を意味します。

このお経は、意味を理解するため大きく分けると
11の部分に分けられます。

昨年は初めの部分「破地獄偈」のお話をしましたので、
今年は二番目の部分「帰依三宝(きえさんぼう)」
といわれる、以下3句のお話をします。



「なむじほうふー 南無十方仏 なむじほうはー 南無十方法 なむじほうせん 南無十方僧」
「南無」とは、敬意を示し礼拝しますという意味で、
仏法僧にまごころこめて信じ従う心をさしています。

仏法僧をまとめて「三宝」といい、仏教では最も尊ばれています。
仏(悟りを開かれた人)
法(仏様の教え)

僧(お坊さんを指すのではなく、ともに修行に励む友のこと)
この「三宝」を心の宝とし信じ従うことこそ幸せだと説かれています。

禅宗の初祖達磨大師は幼少のころ、
般若多羅尊者より「この国一番の宝はなにか」と問われ
静かに自分の胸に手を当てて「心の宝第一」と答えたそうです。
自分の心の外にばかり宝を探し、
物質的な金品飲食などで満たされたように錯覚してしまう中、
もう一度大切なものは何か静かに問いつつ、
家族みんなでご先祖様をお迎えしたいものです。



中門の柱下の板金加工のご寄進 ありがとうございました



この度、中門の柱を修繕しましたがその際
板金加工について山口美智弘様よりご寄進をいただきました。
柱の足元部分の板金加工は、雨の跳ね返りから柱を守り
雨どい部分の板金加工は、雨降りの日でも門をくぐりやすくしてくれます。
本当にありがとうございました。

大智寺だより

平成 28 年 葉月
Vol.76

発行所
大智寺

岐阜市山県北野
668-1
電話:058-229-1532

《Mail》
hybsr245@ybb.ne.jp
《ホームページ》

大智寺

検索

<http://www.daichi.ji.com>

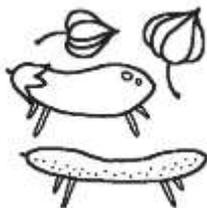
当紙は、大智寺本堂及び墓地
の水小屋にてご自由にお取り
いただけます。
又、当寺ホームページにて
過去のすべての紙面をご覧いた
だけます。ご活用ください。

7月号発行部数
200部

ご愛読
ありがとうございます

大智寺住職 交代

かねてよりお伝えしてきました通り、
7月中旬に妙心寺への書類手続きをし、この度住職交代を行いました。
以後、卓宗良徹和尚が20世住職として務めさせていただきます。
どうぞよろしく申し上げます。



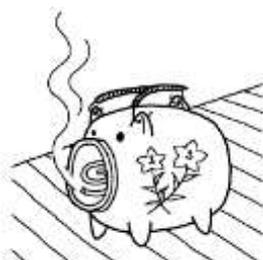
また、19世大愚良寛和尚は今後も閑栖（かんせい）として寺務にあたります。
「閑栖」とは禅語で、隠居した和尚様をさします。
住職として最後の仕事となりましたトンネル作りも先月完成しました。
お寺参りの際にはどうぞご覧ください。

お盆の棚経

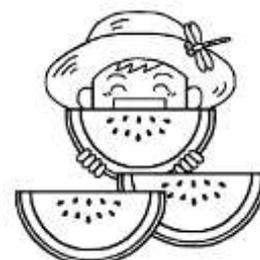
今年もお盆の季節となりました。住職と閑栖和尚が自転車で棚経にまわります。
まわる順序は例年通りですので、よろしく申し上げます。

- 12日（金） 午後 12:30～17:00 里4（山口正三様より）→ 里3 ← 里2（山口卓雄様より）
- 13日（土） 午前 6:30～12:30 高富・関方面
午後 10:00～17:30 里5（村井博史様より） 出屋敷（笠井伸治様より）
午後 19:00～21:00 大洞団地
- 14日（日） 午前 6:30～7:30 門屋 → 宮川様より東へ 里2・里3の5軒
午前 6:30～10:30 里1（渡辺年勝様より）
午前 10:30～13:30 西山西（山口豊雄様より） 西山東（笠井岩夫様より）

～ 他家の法要に出る機会の少ない奥様のため 若い世代のために ～
（実際にお寺にご相談いただいたものから抜粋）



お寺のこと、仏壇のこと、法要のこと etc
わからないこと 質問帳 ②⑤



「お葬式にどうして楽器を鳴らすの？」

臨済宗や曹洞宗のお葬式では「ちんぽんじゃらん」と鳴らしものを使います。
葬儀の静けさを打破るため、人によってはびっくりされるかもしれませんが。
太鼓と、シンバルのような鑢鉞（にょうはち）を合わせて、正式には「鼓鉞（くはつ）」と言い、
葬儀ではこの2つに引磬（いんきん）が加わり「ちんぽんじゃらん」となります。

葬儀の和尚様の人数によって

6人葬のことを両鉞（りょうはち）、4人葬のことを片鉞（かたはち）と言いますが、
この鳴らしものを和尚様一人一つずつ受け持つこととなります。
これは、お釈迦様入滅の時、天人が総出で持ち寄った楽器を鳴らし別れを惜しんだ故事によるもので
これにちなみ鼓鉞を鳴らして、阿弥陀様のいらっしゃる極楽浄土に行けますよう祈ります。

もしも小さいお子様などに楽器を鳴らすわけを聞かれたら

「昔、お釈迦様が亡くなった時も悲しんだ人がたくさんいて、その人達がみんなで楽器を鳴らして
別れるのを悲しんだんだよ。亡くなったおばあちゃんもお釈迦様のお弟子様として旅立つから、
お釈迦様が亡くなった時と同じように楽器を鳴らすんだよ。」
と教えてあげてください。

～ 日常を豊かに『発菩提心空拳章（通称：菩提和讃）』 ～



お経のやさしい和訳（和讃）から
毎日の生活を 心豊かに

大智寺檀信徒日課經典
31ページより

②6

「冥途の用には成らぬもの 金銀財宝持つ人も」

ある日、お釈迦様がお話をしている時、
弟子のアヌルダがつい居眠りをしてしまいました。

お話の後、お釈迦様はアヌルダを呼び、厳しくお叱りになりました。
心から反省したアヌルダは「以後、決して眠りません」と不眠不休の誓いを立てました。
しかしそんな無理が続くはずもなく、とうとうアヌルダは失明してしまいます。

失明しても僧侶は自分の身にまとう衣は自分で縫わなくてはなりません。
「誰か幸せを求める人は、私のこの針に糸を通してくれませんか」とアヌルダがつぶやくと、
「私が通させてもらいましょう」と誰よりも早く声をかけたのは、
ほかでもないお釈迦様ご自身でした。

飛び上がるほど驚いたアヌルダは「お釈迦様も幸せを求めているらっしゃるのですか」と尋ねます。
するとお釈迦様は「私ほど真剣に幸せを求めた人がいるだろうか」と静かに答えられました。

田畠、金銀財宝、世間的幸せに満たされていたはずのお釈迦様は
それが何の用にもならないことを誰よりもしっかり悟り、
まったくベクトルの違う幸せを一生かけて求め続け、「仏教」を残してくださいました。

秋の暑さ

秋も目前とはいふものの、じっと我慢のこの暑さ。皆様いかがお過ごしでしょうか。

さて今月はお盆を迎えますが、猛暑が続く中、仏様にお供えした花もたちまち枯れていく始末。今朝水を替えたからと言って、おちおち安心していられません。花の水替えに限らずアツという間に乾いていく洗濯物を見ても、夏は時間の経過がくつきり見える季節だと感じさせられます。作り置きした煮物も、かき回し忘れたぬか床も、私のことなど待っておれぬとばかりに逝ってしまいます（笑）

あまりの暑さに赤子を団扇で扇いでやると、手足を最高にはたつかせて大興奮しますが、そんな姿を見ていると自分は何と多くの幸せを「当たり前」にしてきたことかと思えます。「ありがとう」という言葉の反対は「当たり前」だそうです。日常は、本来ありえない、有り難いことではないんだよ。「森羅万象ありがとう」と赤子は叫びます。

自分の時間もまた花や煮物と同じスピードで刻一刻過ぎていきます。とにかく「今より若い歳はない」の言葉通り、手遅れにならぬよう今から赤子に弟子入りし「ありがとう」を取り戻し生きていきたいと思つ夏です。

心が変われば行動が変わる
行動が変われば習慣が変わる
習慣が変われば人格が変わる
人格が変われば運命が変わる
運命が変われば人生が変わる（アミエル）

～ シリーズ いますぐできる精進の味 ～

♪ お寺のぶきっちゃんでも簡単に作れた ヘルシーなお味 ♪

夏バテにぴったり 元気もりもり夏の生姜焼き

- ① 豆腐を水切りし、ひと口サイズの大きさに切りわけ 片栗粉をつけフライパンで焼き色がつくまで焼いて取り出す。
- ② 玉葱、ニンジン、ピーマンをフライパンで中火で炒める。
- ③ 玉葱がしんなりしたら、みりん大さじ2、砂糖大さじ1、醤油大さじ3、酒大さじ1、おろし生姜小さじ1を入れて、ひと煮立ちしたら豆腐をもどし全体にタレをからめて出来上がり。



豆腐をしっかり水切りさえすれば失敗知らずのお料理です。生姜が夏の疲れを癒してくれます。一緒に入れる野菜をアレンジすれば春夏秋冬飽きることなくご飯のお供になってくれます。

♪ 月に一度はお寺まいり ♪

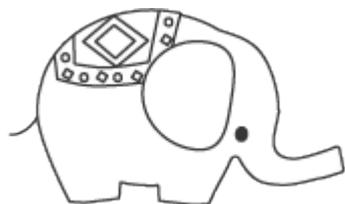
初心者 大歓迎
東日本大震災物故者追善供養
毎月 第四日曜日
定例写経会

今月の日程

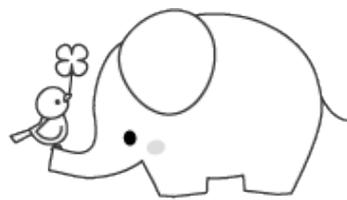
8月28日(日) 一回 500円
(朝8時~9時) (内300円は義援金)
要申込

8月写経会 備忘録

土用入りし、ますます暑さも本格的になってきた日曜日。こんな夏の盛りにぴったりの落語「千両みかん」を楽しみました。落語の中の番頭の気持ちは滑稽ながらも人間の悲しい欲について考えさせられます。お話の後には中津川の本の芽流しで一服。今日は地元の方から嬉しい夏野菜のおすそ分けをいただきました。



大智寺の本尊様に見守られつつ、
故人の新たな一步を本堂からお見送りする
そんな一般葬を希望される方々へ



本堂を会場に営む 一般葬
あれこれ

7 夜伽

通夜ふるまいが終わると、夜伽する人を残して皆様自宅へ帰ります。
お寺にて夜伽なさる場合、布団などの夜具はお寺にありませんので、
自宅から簡単な布団類をご持参いただくか、布団レンタルをご利用いただくこととなります。
また必要に応じて寝間着やお茶類、翌日の朝食もご用意ください。

お寺の近くの方であれば、お風呂は自宅にてすましていらっしゃいます。

遠方で、お風呂のために往復するのが大変な方は
武芸川温泉(お寺から片道15分程)をご案内しております。
夜伽される方がお寺へ戻られましたら、入口の戸締りをします。

夜伽は本堂の西の部屋にて行っていただきます。
外出される場合には、ロウソクや線香など火のもとに十分ご注意ください。

だいたい翌日が葬儀当日となりますので、
翌朝は8時頃までにはお荷物を片付け、部屋を掃除し
親族及びお客様をお迎えする段取りとなります。



ご自宅で お寺で 市営斎場で 営む
家族葬

ご家族・ご親族のみの家族葬をお考えの場合、
ご自宅や市営斎場を会場に営むことができます。

また大智寺を会場にお使い頂くこともできますが、
その場合、指定の葬儀社をお寺でご案内致します。
必ず前もってご相談ください。

家族葬をご検討される場合は、
葬儀社のこと、葬儀会場のことなど含めて
まずはお寺までご相談ください。

完全個別永代供養墓

1区画：38万円~
(墓石代金含む)

「永代供養墓」とは、将来お墓を守りする方が
いなくても、お寺がご供養させて頂くお墓です。

大智寺の永代供養墓は、ご夫婦・ご家族一緒に
ひとつのお墓にお眠りいただけるタイプです。
永代にわたり、他の方のお骨と混じらないことから
「完全個別永代供養墓」といいます。
詳しくは、ご見学を含めてご説明しますので、
ご予約の上 ご来山ください。